

# 福岡 空のモビリティ講演会 第2回のお知らせ

## ～空のモビリティの最新情報～

【概要】空飛ぶクルマ・ドローン開発の背景、課題、今後の研究開発の方向性などについて業界の専門家からお話いただき、それらの社会受容に必要な要素を検討します。

開催日時：2024/1/22(月)15:00-17:30

場所：アクロス円形ホール

開催形式：第1部はハイブリッド、第2部は対面のみ

第1部：ドローン・空飛ぶクルマのテクノロジー最前線と未来

- ▶ 国内外の動向、政府や自治体、産業の動きと今後の見通し (仮) — 岩本学 (DBJ)
- ▶ ドローンテクノロジーの今後 (仮) — 平井辰弥 (テラドローン)
- ▶ 未来の空クル (仮) — 岩熊成卓 (九大システム情報科学研究院教授)

第2部：パネルディスカッション — 空モビの社会受容の条件 ～ELSI から見た社会実装～

- モデレータ：小島立 (九大法学研究院教授)
- パネラー：岩本学 (DBJ)、平井辰弥 (テラドローン)、岩熊成卓 (九大)  
(オンライン) 高崎春夫 (名大)、小林史明 (明大)、藤井秀道 (九大)



第2回講演会  
登録サイト



岩本 学 (日本政策投資銀行 産業調査部 調査役)

2012年、日本政策投資銀行 (DBJ) に入社し、エアライン・リース会社向けの機材ファイナンス業務に従事。その後、アセットファイナンス部にて物流不動産・データセンター向けの不動産ファイナンスや航空宇宙室にて航空宇宙関連のイノベーション分野を担当。2021年3月からは産業調査部に所属し、DBJにおける次世代エアモビリティに関する取組みを主導。



平井 辰弥 (TerraDrone 株式会社 運航管理開発部 マネージャー)

会計システムエンジニア、AI導入のPM等を経験し、2023年1月よりテラドローンに入社。ドローンが飛び交う時代を安全に到来させるべく、ドローン運航管理システム (UTM) の開発および UTM を活用した事業を検討する運航管理開発部にてマネージャーを務め、ドローンの社会実装を推進している。



岩熊 成卓 (九州大学大学院システム情報科学研究院 教授)

超伝導技術の幅広い産業分野への応用を目指し、高温酸化物超伝導線材・導体の電磁特性の解明とその定量的評価技術の向上や、回転機・変圧器・ケーブルなど高温超伝導電気機器の研究開発を行っている。2019年4月に、九州大学大学院システム情報科学研究院に、先進電気推進飛行体研究センターを設置し、2020年4月には全学の研究センターとして拡充し、航空機と空クルの電気推進化による低エミッション、低ノイズ、高効率化を目指した研究開発に従事。



小島 立（九州大学副理事、大学院法学研究院 教授）

専門は、知的財産法、文化政策、科学技術イノベーション政策。私たちが多様性と包摂性を兼ね備えた形で科学技術の成果や文化的表現を享受できるための制度設計について教育研究を推進中。最近は、出身地である福岡県直方市や筑豊地方の石炭産業遺産に関する研究も推進。2020年から「空飛ぶクルマ」のELSIプロジェクト（JST RInCA）に従事。



高崎 春夫（名古屋大学未来社会創造機構 特任教授）

博士（経済学）。専門は情報経済学。プライバシーおよびセキュリティの分野を経済学的視点から実証的に研究。主な著書に『プライバシーの経済学』（勁草書房、2018年）、訳書に『Ctrl+Z 忘れられる権利』（共訳、2021年）など。



小林 史明（明治大学法学部 准教授）

博士（法学）。専門は法哲学・法と文学。日本学術振興会特別研究員PD等を経て現職。主な著書に『法と文学』（勁草書房、2020年）、訳書に『法と感情の哲学』（共訳、勁草書房、2023年）など。



藤井 秀道（九州大学総長補佐、大学院経済学研究院 教授）

専門は日本経済論、環境経済学。持続可能な社会に向けた制度設計について経済学の視点から研究を行なう。2021年に日本経済新聞の「やさしい経済学」、2022年に週刊エコノミストの「学者が斬る・視点争点」で連載。共著に『幸福の測定：ウェルビーイングを理解する』（中央経済社、2021年）など。2023年に身の回りのCO2排出量を見るアプリ「CarbonScope」をリリース。

## 福岡 空のモビリティ講演会 第3回のお知らせ ～空クル・ドローンの運航に関するテクノロジー～

【概要】空クル・ドローンを運航させる為に必要な技術にフォーカスして業界の専門家から、現状や今後の研究開発の方向性などにお話していただき、それらの社会的影響などについて検討します。

開催日時：2024/2/13(火)15:00-18:00

開催場所：エルガーラ多目的ホール

開催形式：第1部はハイブリッド、第2部は対面のみ

第1部：オートパイロット・管制・制御技術の最前線と未来 — 空クルの社会普及に必須とされるオートノマス運航についての管制・制御・通信の研究者に聞く

- ▶ オートパイロットとそれに必要な技術（仮） — 山本薫（九大）
- ▶ ドローンと他の飛行体の安全を図るためのUTM（仮） — 久保大輔（JAXA）
- ▶ 未来の都市のMaaSにおける空クルの役目・可能性（仮） — 日高洋祐（MTJ）
- ▶ データ通信や個人情報保護などの法的側面（仮） — 寺田麻佑（一橋大）

第2部：パネルディスカッション — ソフトインフラの面から社会・市民への影響を考える（未来社会インフラ、公共交通・MaaS、データインフラなど）

- モデレータ：小島立（九大法学研究院教授）
- パネラー：山本薫（九大）、久保大輔（JAXA）、日高洋祐（MTJ）、寺田麻佑（一橋大）



第3回講演会  
登録サイト



山本 薫（九州大学大学院システム情報科学研究院准教授）

九州大学大学院システム情報科学研究院准教授。2016年ケンブリッジ大学工学部情報学科制御部門 PhD 課程修了。ミネソタ大学電気情報工学科およびルンド大学自動制御学科でのポストドク研究員を経て、2018年より現職。ドローンをはじめとする移動ロボット群制御の研究に従事。



久保 大輔（JAXA 航空技術部門航空利用拡大イノベーションハブ主任研究開発員）  
2008年よりJAXA 航空技術部門に勤務。垂直離着陸（VTOL）技術研究、無人航空機関連技術の研究開発に幅広く従事。2017-2018年にNASA Ames 研究所において無人航空機と従来有人航空機間の運航管理技術（UTM）研究に従事。NEDO ReAMo プロジェクト JAXA 研究開発責任者。一般社団法人日本 UAS 産業振興協議会（JUIDA）理事。東京大学大学院航空宇宙工学専攻修了、工学博士。



日高 洋祐（㈱ MaaS Tech Japan 代表取締役 CEO、(一社)JCoMaaS 理事）  
東工大卒業後、JR 東日本に入社。車両メンテナンスや運輸業務を行った後、公共交通連携プロジェクトやモビリティ戦略策定などの業務に従事。在職中の2014年、東大学際情報学府で日本版 MaaS の社会実装に資する提言をまとめる。2018年、㈱MaaS Tech Japan を創業。MaaS プラットフォーム事業などを行う。著書に、『MaaS モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ』（日経 BP 社）などがある。



寺田 麻佑（一橋大学ソーシャル・データサイエンス教育研究推進センター教授）  
専門は行政法、技術と法、情報法。ドローンと法の研究について研究も続けており、ドローンハイウェイの研究なども含めて、スマートシティの法的課題の研究をおこなっている。また、地方公共団体におけるデジタル化・DX 化の課題に関する検討にも取り組んでいる。主な著書に、『EU とドイツの情報通信法制』（勁草書房、2017 年）、『先端技術と規制の公法学』（勁草書房、2020 年）。埼玉県個人情報保護審査会会長、東京都公文書管理委員会委員。



小島 立（九州大学副理事、大学院法学研究院 教授）  
専門は、知的財産法、文化政策、科学技術イノベーション政策。私たちが多様性と包摂性を兼ね備えた形で科学技術の成果や文化的表現を享受できるための制度設計について教育研究を推進中。最近は、出身地である福岡県直方市や筑豊地方の石炭産業遺産に関する研究も推進。2020 年から「空飛ぶクルマ」の ELSI プロジェクト（JST RInCA）に従事。

# 福岡 空のモビリティ講演会 第4回のお知らせ

## ～未来の都市・社会の形 - テクノロジーの発展、 産業界の動向、行政の対応、社会・市民の責任～

【概要】本講演会のまとめとして、空クルがどの様に私達の社会に入ってくるべきかについて、先ずインフラの専門家からお話いただき、空クルが真の社会受容を得る為に、私達が何について考えるべきか検討いたします。

開催日時：2024/3/11(月)15:00-18:00

開催場所：アクロス円形ホール

開催形式：第1部はハイブリッド、第2部は対面のみ

第1部：パーティポート・コリドー最前線 - 空クルが未来の公共交通となるために必須となるパーティポートとコリドーの設置について技術、行政、社会（市民）の視点で考える

- ▶ 多交通機関との接続点としてのパーティポートの機能と設置に必要な技術（仮） - 岡田惇史（スカイポート）
- ▶ コリドー設置についての留意点（仮） - 虎谷大地（ENRI）
- ▶ パーティポート、コリドー設置について都市計画、行政から考えるべき事（仮） - 黒瀬武史（九大）

第2部：パネルディスカッション - 空モビが、私たち・将来の世代にどのような影響があるのか？未来の社会がどうあるべきか？について議論する（総括、未来社会の倫理、心理、文化、環境など）

- モデレータ：小島立（九大法学研究院教授）
- パネラー：野口和彦（JST）、伊藤貴紀（元経産省）、藤田雄飛（九大）、陳思聡（九大）、小林史明（明大）、
- エキスパートコメンテータ：岡田惇史（スカイポート）、虎谷大地（ENRI）、黒瀬武史（九大）



岡田 惇史（Skyports 株式会社 代表取締役）

日建設計にて都市デザイナーとして MENA、APAC、CIS26 都市における大規模都市開発に従事。その後ポストンコンサルティンググループにてテクノロジー・メディア・通信領域の企業改革をサポート。空と地上、人との、のモビリティネットワークを築くことを目指して、Skyports の日本法人を立ち上げ、パーティポートの開発・運営事業を進めている。



虎谷 大地（電子航法研究所（ENRI）航空交通管理領域 主任研究員）

2016年横浜国立大学博士課程後期修了。同年、（国研）海上・港湾・航空技術安全研究所（MPAT）電子航法研究所（ENRI）に入所。航空管制を対象に、最適制御の応用、数値シミュレーション、データ分析等の研究開発に従事。現在はドローンや空飛ぶクルマといった新たな航空機と従来の航空機が共存するための環境構築に関する研究にも従事。



黒瀬武史（九州大学大学院人間環境学研究院 教授）

2004年東京大学工学部都市工学科卒業、2006年同大学院修士課程修了。株）日建設計都市デザイン室を経て、2010年から東京大学大学院助教。2016年から九州大学大学院人間環境学研究院准教授、2021年から同教授。専門は都市デザイン・都市計画、そのなかでも工場跡地の再生、人口減少都市の再生、都心部の民有公共空間を近年の研究テーマとしている。



第4回講演会  
登録サイト



小島 立（九州大学副理事、大学院法学研究院 教授）

専門は、知的財産法、文化政策、科学技術イノベーション政策。私たちが多様性と包摂性を兼ね備えた形で科学技術の成果や文化的表現を享受できるための制度設計について教育研究を推進中。最近は、出身地である福岡県直方市や筑豊地方の石炭産業遺産に関する研究も推進。2020年から「空飛ぶクルマ」の ELSI プロジェクト（JST RInCA）に従事。



野口 和彦（JST RISTEX EISI PJ アドバイサー、横浜国立大学客員教授）

専門は、科学術と人間の共生、リスクマネジメント、安全工学。1978年東京大学航空学卒、三菱総合研究所入社後2005年研究理事に就任。2014年横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授、2015年同校リスク共生社会創造センター長兼任。2020年常勤退職後、学長特任補佐、客員教授に就任。その他、ISOTC262 日本代表委員、国内委員会委員長、日本学術会議連携会員等を歴任。



伊藤 貴紀（株式会社かえで、元経済産業省次世代空モビリティ政策室室長補佐）

2014年経済産業省入省。APEC、基準認証政策、ベンチャー企業出向を経て、2019年から2023年までドローンや空飛ぶクルマの産業振興、事業環境整備等に従事。現在は、家業の保育園経営を担いつつ、次世代空モビリティの業界関係者のコミュニティ形成を支援している。



藤田 雄飛（九州大学大学院人間環境学研究院 教授）

2004年京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学。2006年博士（人間・環境学）学位取得。日本学術振興会特別研究員（PD）、パリ第10大学招聘研究員、大阪大学人間科学研究科助教を経て、2012年に九州大学大学院人間環境学研究院准教授として着任。2021年より現職。専門はメルロ＝ポンティおよびフーコーの思想をもとにした教育学研究。専門領域は教育哲学・教育人間学。



陳 思聡（九州大学大学院人間環境学研究院 准教授）

博士（人間科学）。専門はシティズンシップ教育、教育政治学。東北大学教育学研究科での助教・特任講師を経て、2018年より現職。東アジアにおけるシティズンシップ教育の政策と実践を中心に研究している。著書に『The Meaning of Citizenship in Contemporary Chinese Society』（2018, Springer）がある。



小林 史明（明治大学法学部 准教授）

博士（法学）。専門は法哲学・法と文学。日本学術振興会特別研究員 PD 等を経て現職。主な著書に『法と文学』（勁草書房、2020年、訳書に『法と感情の哲学』（共訳、勁草書房、2023年）など。